

科目名	成人聴覚障害			授業の種類	演習	講師名	
授業回数	15回	時間数	30時間 (1単位)	配当学年・時期	言語聴覚士科2年	必修・選択	必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>聴覚系、聴覚障害者等の基本的な知識、聴力検査の理論と種類、検査方法や技術、臨床的意義などを理解し、聴覚障害者に対するリハビリテーションについての理解を深める。</p>							
<p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>聴覚系、聴覚障害者等の基本的な知識、聴力検査の理論と種類、検査方法や技術、臨床的意義を学ぶ。</p>							
<p>〔講師の実務経験〕</p>							
<p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>聴覚障害の特徴を理解し、典型的な症例について、リハビリテーションに必要な評価法、指導法を選択し、実施し、結果を評価できるようになる。</p>							
回数	講義内容						
1	ニーズの違いと指導(成人期)						
2	ニーズの違いと指導(中年期)						
3	ニーズの違いと指導(老年期)						
4	聴覚的手段(補聴器)						
5	聴覚的手段(人工内耳)						
6	その他の聴覚的手段						
7	視覚的手段(文字)						
8	視覚的手段(手話)						
9	視覚的手段(指文字、読話)						
10	触覚的手段						
11	聴覚活用(補聴器、人工内耳)						
12	聴覚活用に影響を及ぼす要因						
13	聴取レベルと訓練内容						
14	視覚活用(読話)						
15	コミュニケーション方略						
<p>【 準備学習・時間外学習 】</p>							
<p>【 使用テキスト 】</p>							
書籍名		著者名		出版社			
なし・配布プリント							
<p>【 単位認定の方法及び基準(試験やレポート評価基準など) 】</p>							
<p>試験の結果を100点満点として成績を評価する。試験は定期試験のみ実施とし、60点以上の場合に科目を認定する。</p>							